

# 九州リレー旅行記

松崎 武志

以下の文章は、旅行・鉄道研究部が3月26日～30日に実施した九州旅行でたどった行程を、高1部員たちおよび顧問が時系列に従って述べたものである。

瀬木 大夢

僕は3月26日に旅行に出発した。その日の夕方に風呂に入り、食事をした。そして出発するまでテレビを観ながら待っていた。

夜の9時半を過ぎたころ、僕は家を出て、最寄り駅である宮崎台駅へ向かった。駅に着くと、駅前のファミリーマートに立ち寄った。そこで少しの食べ物と飲み物を買って、駅のホームへ行った。そして東急田園都市線に乗って渋谷へ行った。そこでJR山手線のホームへ行った。山手線のホームで待っていると、電車が遅れているという放送があった。しばらく待っているとホームに人が増えていった。そして、電車が来たが車内を見ると混んでいた。その電車に乗ったが朝のラッシュ時の車内よりも混んでいた。その電車は、集合場所である新宿駅に到着するまで混んでいた。そして新宿駅に着いて集合場所である9・10番線に向かった。そこに行ったが時間があったのでしばらく待っていた。待っている間は少し寒かった。そして集合時間になって23時54分発の快速ムーンライト信州81号に乗った。席に座ると、僕はゲームをやった。そしてゲームをやっている間に日付が変わった。その後もしばらくゲームをやって、僕は寝た。



翌日、前日から乗っていたムーンライト信州の中でのこと。立川から三月二十七日であったが、その前日から遊んでいたために立川駅に停まった記憶がない。即ち寝ていたようだ。五時ごろに起こされたのだが、すぐに寝た。また起こしてもらったが、また寝た。三回目にして今度は降りる駅である信濃大町に着いてしまったため、起きるしかなくなってしまった。その次の電車では、座れたのだが、眠気というもの一度なくなるともう戻ってこないようで、まったく眠ることなどできなかった。しかし、ここで寝たほうが良かった。そう気がつくのにはそう時間がかからなかった。この電車には一時間ほど乗っていた。

次の電車は十六分しか乗っていなかったので書くべきことはひとつしかない。顧問の西〇先生が寝過ぎしてしまったのである。これはおそらく鉄研史上初めてなのではないだろうか。次に乗った電車はおよそ一時間四十五分程乗っていたが、何も特筆すべきことはない。正直何も記憶に残っていないのである。もしかしたら寝ていたのかもしれない。本当にここで寝ていたとしたら自分の体力がないと思うしかない。その次はセントラルライナーに乗ったが何も記憶に残っていない。多治見からの電車に乗った後三十四分間は地獄のようであった。立たなければいけなかったのである。そこでグダグダ感が一気に増加してしまった。そしてそこでかなりの体力を消費してしまったが、この消費分はそのとき全く期待していなかったフェリーで回復できるなど、思ってもみなかったのであった。



3月27日の午後にあったことについて書きます。大阪に着いたのは13時15分ぐらいでした。大阪駅ではまず昼ごはんを食べられる場所を探すことにしました。その後いろいろな場所を探して食事ができそうな場所があったのでグッパで分かれることにしました。

結局、班分けは僕・高根・宮田・藤谷と大谷・白石・瀬木・永井の4人ずつに分かれました。僕たちは適当にラーメン屋に入ることにしました。僕はしょうゆラーメンを食べました。全員が注文してしばらく立つと、分かれていた4人も来ました。その後先に頼んでいた僕たちが、先に食べ終わって店を出ました。その後電車に乗りたいという2人と別かれて、大阪をただひたすら彷徨っていました。結局集合時間近くまで歩いていたのですごく疲れました。

16時54分発関空行きに乗って、17時05分発コスモスクエア行きに乗り、17時18分発、住之江公園行きに乗ってトレードセンター前に17時20分につきました。その後、港みたいなところに行って「関西汽船 さんふらわあ あいぼり」の別府観光行きに乗りました。フェリーでは顧問3人を除く全員が同じ部屋でした。船はあまり揺れませんでした。ここでも班に別れて風呂に入りました。風呂から上がると夕食を食べることにしました。夕食はバイキング形式でした。僕はカレーライスを食べました。カレーは550円でした。その後はいろいろありましたが部屋に帰って寝ました。





藤谷 真之

私達はフェリーで別府まで揺られていた。朝四時、私はなぜか目覚めてしまった。前夜のムーンライト信州では一睡もできなかったの、時間が許す限り眠ろうと思っていた。

朝七時、別府港から別府駅に向かうバスに乗った。前日の疲労のせいか、駅までかなり遠く感じた。

別府駅に到着した。私としては大分に行って大分から特急「ソニック」で博多に行こうと考えていたが、高い特急料金や、とりあえず博多へ行こうという周りの考えもあり、私は、「景色をゆっくり楽しめるので、普通列車を乗り継いで博多に行くのも良い移動なのだろう」と思って、とりあえず杵築まで向かった。

杵築は予想以上に寒かった。とりあえず「ソニック」が駅に到着したので、写真を撮っておいた。次に普通列車で中津まで向かった。仲間たちはみんな疲れきった表情をしていた。中津駅に着いた。このあたりまで来るともう住宅地まで来たのだなという実感が沸いた。

そしてまた普通列車に乗り、小倉まで向かった、乗車率も、だいぶ高くなってきた。小倉で、降りてすぐに、博多へ向かう「準快速、羽犬塚行き」に乗った。珍しい種別だ。博多までの景色は都会近郊のような景色だった。皆はゲームをしているか、眠っているかのどちらかであった。

博多について、午前中の行動は終了した。この日は博多ラーメンを食べた後、福岡市営地下鉄を乗りつぶし、小倉のホテルで泊まった。私としては充実した一日だった。



大谷 勇貴

3月28日の午後、僕たち中三（現高1）は横溝君を除いて全員、博多ラーメンで有名な博多へむかいました。博多ではまず、白石・大谷・二階堂・藤谷の四人組と宮田・永井・高根・瀬木の四人組に分かれてそれぞれのグループで昼食を食べました。しかし、結局何をすればよいのかわからなかったため、全員で公園に行って午後5時くらいまで過ごしました。その後はヨドバシカメラに行って買い物をしました。博多駅で高根・藤谷と合流して、小倉行きの電車に乗りました。電車内では、DSやPSPで遊んだり寝たりしていました。ホテルでは徹夜しました。

松崎 武志

東横イン小倉駅北口に宿泊した翌日は朝食を済ませ、7:20にロビー集合という段取りだった。しかし宿泊した部屋がシングルルームゆえ、やはり全員はそろわず、時間通り集合した部員たちを特別参加の源中先生に託して出発させ、私は寝坊した部員たちを西島教諭とともに束ねて小倉を出た。

関門トンネルを抜け本州に入ったが、先発隊16名を鉄研の顧問ではない源中先生に任せ、私一人厚狭駅で普通電車から新幹線に乗り換え、新山口にて先発隊に追いついた。そしてそのまま広島まで行き、先発隊を解散させた後、新幹線口の方にある名物の「ばくだんつけめん」を食べながら、後発隊の到着を待った。1時間後に西島教諭と寝坊した生徒たちを見た時は、本当に安心した。そして、西島教諭とともに駅ビル2階にあるお好み焼き屋「麗ちゃん」で肉玉を食べた。やはり本場で食べる広島風お好み焼きはうまいと思った。

高根 一綺

僕は徹夜したので、朝起きるのがとてもつらかったです。小倉駅から下関へ向かうとき、九州から離れるのがとても寂しかったです。下関で乗り換えて、とても眠かったので、寝たりゲームをしていたら、いつの間にか新山口に到着しました。久しぶりに本州に着いたので、少し懐かしかったです。ここで乗り換えて広島へいくときも眠ったり、ゲームをしたりしました。また、気がついたら広島に着いていました。前日徹夜したせいで、電車からの山陽の風景をあまり楽しめずに、すこし損した気分でした。

宮田 直季

僕は3月29日月曜日に普通糸崎行きに乗り、広島に行きました。広島ではグッパで僕、高根、永井、二階堂のグループと、瀬木、白石、大谷、藤谷のグループに分かれました。

まず僕たちのグループは昼食を求め散策をしました。20分後くらいにお好み焼きの店が10店くらい入ったビルに入りました。その中で、一番空いていた店で肉玉780円を注文しま

した。その店の TV では NHK で、選抜高校野球がやっていた。学校名は忘れましたが白熱した試合が行われていました。その後、時間になったので駅に向かいました。広島駅からは糸崎行きに乗りましたが、車両トラブルのため、代走で糸崎まで行きました。その後は普通列車と新快速を乗り継いで無事大垣に着き、ムーンライトながらに乗りました。

白石 崇人

私は帰りの電車の中、この旅行が終わってしまうことに安堵感と一種の不安を感じていた。眠いので、今までの旅行中の出来事が走馬灯のように頭の中を駆けめぐった。私の周りの人はみんな旅行の疲れからか、ぐっすり寝ていた。ムーンライトには、今までの旅行で何回もお世話になっている。なかでもムーンライトながらには多く乗ったので、電車の窓から見える景色も、乗り心地も慣れたものだった。東京駅について、いつも通り解散したのだが、やはり寂しい気持ちになった。

そして山手線に乗り、新橋で乗り換えて、学校から帰ると同じように、来た電車に乗り帰ることにした。するとどうだろうか、来た電車の中に変な人が乗っているではないか！ 私は極力目を合わせないようにした。家に帰るまでが遠足というが、1人になるととても心細いものだ。

そうしているうちに、乗換駅の高砂に着いた。外に出ると、さすがにまだ冬なのか、冷たい風が私の体に染みこんでいった。寒い。とてつもなく寒い。冗談じゃない。その寒さに怒りさえ込み上げてきた。10分位経ち、高砂に普通成田行きがやってきた。上野から成田まで各駅停車なんて大変だなと思いつつ、その電車に乗った。そして鬼越で降り、凍てつく寒さの中、帰路に着いた。家に着き、ドアノブを傾け、ドアを引いた。それから私の記憶は無い。



停車場第4号で、私は北総線が成田空港まで延伸し、都心までより早く出られる未来に想いを馳せる文章を書いた。それ以来9年の歳月が流れたが、この7月にとうとう実現した。

スカイアクセス線に乗るだけなら、普通に京急・都営・京成線経由の直通電車で良かったのだが、せっかくなので開通から1ヶ月程経った8月のある日、上野からスカイライナーに乗車した。

私は13:00発のスカイライナーに乗車したが、日暮里を出て北総線に入っても、まだ緩やかなスピードで走行した。この調子で本当に13:41に空港第2ビルに着くのだろうかと不安に思っていたが、印西牧の原辺りから徐々に速度を上げ始めた。そして、かつての終点だった印旛日本医大は、まさに一瞬で通過した。

左右の車窓からは、うっそうと生い茂る森の木々が過ぎていく風景だけが高速で過ぎてい

くのだが、ふっと木々が途切れたなと思うと、真新しい駅のホームが見えた。それこそ、今回新たに設けられた唯一の駅、成田湯川だった。

しばらく森が続いたものの、視界が開け、右側に成田山新勝寺の塔が見えてきた。ああ、もう着くのだな、と感じた。スカイライナーは空港第2ビル駅に定刻通りに到着した。せっかく成田空港まで来たのだから降りてみよう、改札を抜けターミナルに入ろうとした。すると、警備員にパスポートの提示を求められた。「持っていません」と答えると「何の御用ですか」と聞かれた。私が「スカイライナーに乗りに来ました」と答えると、「身分証明書をお持ちですか」と聞かれた。私は免許証を取得していないので、住民基本台帳カードを見せ、無事通過した。そしてターミナルビルの中で、たこ焼きを食べ、今度は京成成田駅まで乗ることにした。

パスモで入り、八千代台・船橋方面の特急上野行に乗ろうとすると、更に改札があった。そしてホームに降りると、中ほどに「ここから先へは抜けられません」という仕切りが出来ていた。ああ、こうやってアクセス線経由と京成本線経由の客を区別しているのかと、ようやく気がついた。



かつて旅行・鉄道研究部には、顧問の教員が所属している学年は部員が多いというジンクスがあった。それを初めて打ち破ったのが現在の高3である。現高3の学年には、私も西島教諭も在籍しなかった。しかし、部員は10名もいる。

彼らは「多士済済」という表現がぴったり当てはまる生徒たちだった。部員の多様なニーズに応えるべく、既存のHP班と模型班の他に、旅行班や写真班などを結成し、組織を活性化させた。日頃から意見をぶつけ合うとともに激論を交わし、物事を進めていった。昨年の高学祭で、展示教室の窓に掲げた「高輪の鉄研から、鉄研の高輪へ」というキャッチフレーズは、彼らが常に心に秘めていた目標だった。時に暴走したこともあったが、すべては部の発展のためだった。

それに比べると、現在の中1から高2までの部員たちの活動状況を物足りなく思うかもしれない。鉄道への興味が薄い部員がいることも否めない。しかし、60名も部員がいれば、まさに「多士」の集まりなのである。歯がゆく感じるかもしれないが、どうか暖かく見守ってやってほしい。君たちの経験を後輩たちに伝えたい気持ちは十分に理解できるが、失敗したのならそれでもいいではないか、と私は思う。それよりも高校を卒業した後に、次に自分が活躍できる場所を探して欲しい。進学したそれぞれの環境で、旅行や鉄道の研究に励んで頂きたい。現実逃避したくなるかも知れないが、目の前の現実と向き合い、希望の進路を歩いて下さい。